

製炭工程③窯木寄せ 窯木の運搬

窯木を窯前へ運搬し並べることを窯木寄せ(かまいよせ)といいます。昔は窯の前に倉庫があり、そこに寝かせて並べていたようです。手前に背の低い窯木を、遠くにいくほど長い窯木を並べます。窯木は頭(立木時に上になる方)を下に向けて並べます。

この作業も一人でできるのですが、きっちり立てているつもりでも、寄りかかって崩れてしまうときもよくあります。立てたときに切った方がいいところを見つけたり、師匠達には窯木寄せにも美学があるようで注意をうけたりします。

作業スペースが狭小のため窯木が農道にかかってしまっているの、農道を通る方にはご迷惑をおかけし、大変申し訳ございません。



窯木寄せ

地区文化祭

上から
一之瀬地区文化祭
多良地区文化祭
時地区文化祭の
出店の様子



3月は地区の文化祭にお邪魔させていただきました。地区ごとに特色があり興味深かったです。展示作品も美しいものや面白いものがたくさんあり上石津町の文化の高さがうかがえました。次回の文化祭も楽しみにしております。

また、出店時には多くの方が声をかけて頂き、ありがとうございました。昔の製炭の様子や炭の使い方を教えて頂き、参考になる話もたくさん聞けました。一つ一つ紹介したいのですが、紙面の都合上割愛させていただきます。

直接お会いできるのは、出店のときくらいですので、とても貴重な時間でした。ありがとうございました。

鍼灸師としての雑感 ～「蛭」なんて読む～

蟋蟀とも書きます。これはコオロギです。蛭の漢字は「恐い」の上と下に虫と書くので何だか嫌なイメージです。

中医学のインターネットで調べたところ、薬にも使われていました。用途は主に泌尿器関連です。禁忌(禁止)事項には、少し毒があるので体が弱い人や妊婦さんは服用不可になっていました。また、子供が10歳なら1日1匹分×10日間まで(日数=年齢)と制限がありました。服用の際には医師や薬剤師にご相談ください。

中国ではコオロギのことを「將軍」とも書くそうです。「闘蟋(とうしつ)」と言って、2匹で戦わせて賭けをする遊びは有名ですね。

4月には大垣
ケーブルテレ
ビで時山炭の
放送があるよ

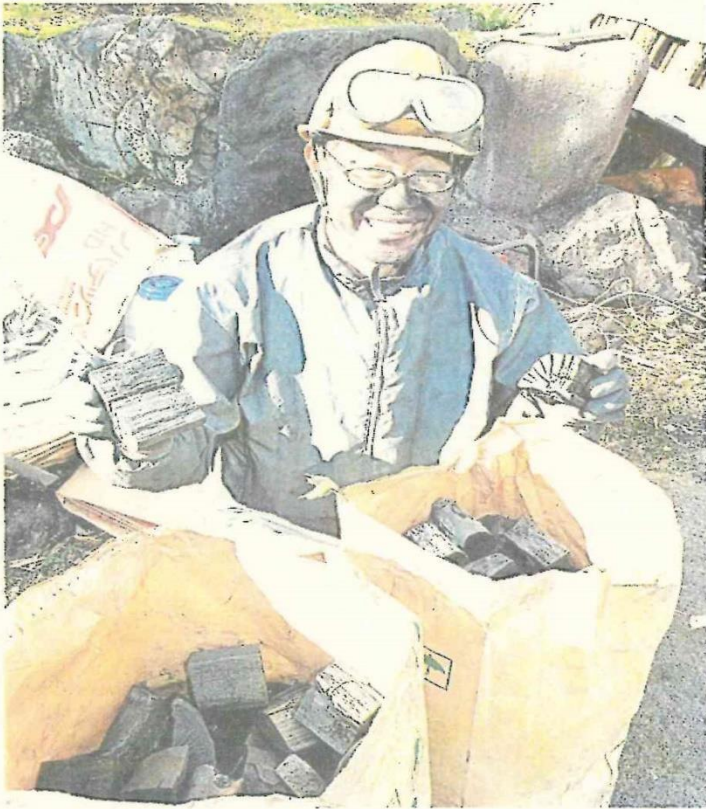
裏面に新聞記事
もあるよ



「時山炭」復活へのろし

大垣市地域おこし協力隊員の中村明弘さん(45)が、同市上石津地域の特産だった「時山炭」の復活をめざしている。江戸時代には京都や名古屋に出荷され、火持ちが良いと評判を得ていたブランド品だ。一線を退いた古老たちから炭焼きの技術を一からたたき込まれている。

大垣の地域おこし隊員・中村さん



炭の出来栄への良さに笑顔をみせる中村明弘さん(大垣市上石津町細野)

技術の継承 困難でも「奥深い」

上石津地域では、明治時代には製炭従事者は300人を超えた。時山地区では全戸加入が義務づけられた「時山精選炭業組合」が、品質の検査や販売を担っていた。

しかし、燃料改革後の1965年以降、時山地区の製炭業も衰退。数軒が細々と炭焼きを続けたが、後継者不足と高齢化で4年ほど前に技術が途絶えた。

昨年3月、時山地区の住民有志が時山炭の文化を継承・保存するため保存会を設立。製炭の方法を知るベテランたちが、地域おこし協力隊員に技術指導する態勢を整えた。

中村さんは三重県東員町出身。10年ほど前から各務原市で鍼灸院を営んでいた。田舎暮らしに倦まされ、何度か上石津地域にも足を運んだことがあった。

新型コロナウイルスの影響で鍼灸院は客足が少しずつ遠のき経営が行き詰まった。鍼灸

院を閉じて就職活動を始めようとした昨年4月、時山炭の製炭技術を習得して情報発信する地域おこし協力隊員の募集を知った。

「鍼灸師の仕事と迷っていたが、合格してから考えよう」と応募。参加した説明会で炭づくりの映像を見て、木を選んで伐採し、自然と共生していることに共感したという。

市や保存会の支援もあって昨年8月に着任。妻(44)と小学1年の長男(7)と移り住んだ。チェーンソーの講習や製炭に使う古い炭窯の修繕、伐木作業などを習いはじめた。

炭づくりから引退した川添峯輝さん(81)と川添美治さん(88)が指導役を務める。9月には約4年ぶりに窯焼きが復活し、約350kgができた。10月は440kg、11月は500kgと生産量も増えている。10月には地元イベント「もんでこかみいしづ」に出店し、初めて炭を販売した。

新型コロナの影響で鍼灸院は客足が少しずつ遠のき経営が行き詰まった。鍼灸

一人前になるには10年とも20年とも言われる。川添美治さんは「自分たちは嫌になってやめたが、中村さんはのみ込みも早い。よくやっとなるんじゃないか」と目を細める。保存会の川添公男会長(65)も「時山炭の存続をかけたラストチャンス。伝統文化を守るために地域全体で支えていきたい。本当に期待している」とエールを送る。

協力隊員としての活動は2025年7月末まで。技術の習得のほか、販路の開拓、情報発信など課題は山積みだ。中村さんは「炭づくりは奥が深く、課題が次々とみつかる。まき割り一つとってもおもしろい。先輩たちの技術を吸収し、みなさんに喜んでもらえる伝統の時山炭をつくれるようになりたい」と意気込む。

時山炭についての問い合わせは市上石津地域事務所(0584・45・3113)。(松永佳伸)